



TOP > 中野人 > 【中野人インタビュー】ファッションデザイナー 朝藤りむ氏

シェア

ツイート



【中野人インタビュー】ファッションデザイナー 朝藤りむ氏

2022.02.04 UP JR中央線沿線エリア 投稿者：まるっと中野編集部

[中野人]



サブカルの聖地と呼ばれる中野。その中野を代表する中野ブロードウェイには、サブカルジャンルをメインとした本・グッズ・アパレルなど様々なお店が所せましと集まっています。そんな中野ブロードウェイ4階にある、「pays des fees (ペイデフェ)」。ここは、女性ファッションブランド「pays des fees」を手がけるデザイナー、朝藤りむさんが経営するアトリエショップです。

こちらのお店では朝藤さんによるプレタポルテを中心に、一点物のクチュールのほか、親交が深い現代美術家たちの作品を取り扱っています。かわいさの中にユニークな個性を持つデザインがたくさん集まる「pays des fees」。今回は、その朝藤りむさんにお話をお伺いします。

居心地の良いまち、中野

—朝藤さんは昔からよく中野に来られていたとか

「私は岩手県出身なのですが、中学生の頃に千葉県に引っ越してきました。その当時から、中野にはよく遊びにきていましたね。中野ブロードウェイにはサブカルチャーの本やグッズがたくさん売られていますし、お店に置いているチラシやリーフレットなんかも、興味を引く内容のものが多かった。そういった情報を求めて、しょっちゅう来てましたよ。私にとって中野は、好きなものがいっぱいある、とても居心地のいいまちなんです」



「私はもともとファッションが好きで、アパレル関連の仕事はずっとやってきました。いろいろ経て独立するにあたり、どこでお店をやっているかと考えた時、いくつか候補地はあったんですが…パツと思いついたのが中野だったんです。これから大変なこともいろいろあるだろうし、だったら好きなものがたくさんあるまちで頑張ろうって思って。あと、中野区役所さんのサポートがあったのも心強かったかな。相談にも乗ってもらえたり、お店を立ち上げるまで非常にスムーズに進めることができました。やっぱりサブカルのまちですよ、クリエイターに優しい（笑）」



—クリエイターといえば、“中野大好きナカノさん”を製作された清水真理さんとも交流があるそうですね

「彼女とは、すごい昔からお付き合いさせてもらっています。もうずっと仲がいいですね。ここのお店でも清水さんの作品を飾ったり、一緒にコラボのアイデアなんかを提案しあってます。」



清水真理さん（左）、奥のピンクのドレスは清水さんの作品

—中野はやはりクリエイターが多く集まってくるんですね

「クリエイターにとっては、すごくいいまちですからね。多様性があるのもいい。特定のジャンルや、作品だけに偏ってないんです。私は「pays des fees」というブランドで、“モードで美しくありながら、文化的な背景がある…まるでファンタジーの世界のようなものの具現化”を目指そうとしています。個性的な表現であっても受け入れてくれる、魅力的なまちですよ、中野は」

カルチャーで中野をもっと盛り上げたい

「あと、中野の持つ魅力って、文化的・歴史的な背景があるってことですよ。中野には芸術家・文化人が昔から多かったらしいですが、それもあって実にいい建築物が多いんです。キュビズム建築とよばれる建物もあったり、私の好きなバウハウスと言われる建築様式のものがあったり。三岸アトリエ（アトリエM）っていうんですけど、私はここが遺産としてもアートとしてもすごく好きなんです。もともと建築も好きで、ドイツにはよく見に行ったりしてたんですが、中野にもあるって知って『こんなに近くにあるなんて、ドイツまで行かなくてもよかったじゃん！』って思っちゃいました（笑）」



「ベルリンのまちがすごく好きなんですけど、中野ってベルリンになんとか似ていると思うんですね。荒削りのアーティスト、クリエイターが多いところとか、パッとみてサブカルチャー的とわかるものが多いところとか。人の雰囲気も似てるかな。ただベルリンはもう少しカルチャーに対して能動的な感じがします。だから個人的にはもっといろいろな企画で、中野をベルリンに負けないカルチャーのまちとして盛り上げていきたいと思っています。」



「例えば中野には**哲学堂公園**がありますよね。中野区には三岸アトリエも含め、価値のある建築物がたくさんありますが、もっとアクティブに活用できないか、と常々思っているんです。例えば哲学堂の四聖堂とか六賢台に夕方からプロジェクトマッピングをしたら、面白いんじゃないでしょうか。中野にいる美大生さんやメディアアーティストさんたちも巻き込んでね。現代文化・芸術との融合です。せっかく中野には人材がたくさんいるんですし、中野だからこそできる、中野らしい企画としてやってみてはどうでしょう。こういうパワーと若さに溢れた活動は、中野のまちの更なる活性化にもつながると思います。区がこういう企画にのってくれるなら…私もぜひ企画会議から参加させていただきたいです（笑）企画にあわせて様々な衣装を作りますよ！」



【中野区のお気に入りスポット】



「中野のお気に入りスポットとしては、**三岸アトリエ (アトリエM)**や、桜の時期の哲学堂公園。あと、薬師あいロードも好きですね。おまんじゅうとかを食べながら散歩するのが楽しい。それから飲食店でいうと「ヤミヤミカレー」とか、「ただ

いま変身中」っていうラーメン屋さんとか。「不純喫茶ドーブ」もいいですね。ドーブは打ち合わせでしょっちゅう利用させてもらっています。ああ、中野のいい場所たくさんありすぎて、絞り切れないです（笑）」



★今回の中野人

朝藤りむ （あさふじ・りむ）



岩手県釜石市出身

2010年 コレクションブランド「pays des fees（ペイデフェ）」アトリエショップを中野ブロードウェイにオープン。

2014年 女性ファッションブランドとしての「pays des fees（ペイデフェ）」の本格的な活動を開始

2021年 楽天ファッションウィーク東京（東京コレクション）に参加

★pays des fees（ペイデフェ）の公式サイトは[コチラ](#)



※問い合わせ先の記載がない記事については、まるっと中野編集部までお問い合わせ下さい。

掲載場所近隣の区民の皆様にご遠慮いただきますよう、お願い申し上げます。

※掲載情報は全て記事取材当時のものです。